

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Yくまーず未来 三河安城		
○保護者評価実施期間	2024年10月1日		～ 2024年10月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	2024年10月1日		～ 2024年10月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2024年12月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日常の活動やイベントなど、子どもたちが楽しく参加できることを考えてさまざまな企画をし、楽しく行なっている。 子どもたちも楽しく通うことができている。	お子さん一人一人の発達年齢、生活年齢、スキル、特性や興味関心などに合わせて、楽しめる活動を企画している。 子どもたちの行動に合わせたSSTなど、発達年齢に合わせて求められるソーシャルスキルを学ぶ機会を設け、学ぶだけでなくゲーム感覚で楽しく取り組める工夫をしている。 土曜や長期休みには外出で電車に乗って外出をしたり、買い物をしたりといった社会経験を積む活動も提供している。	継続して楽しい活動を企画していく。 楽しく行えた活動をバリエーションを変えてみたり、パワーアップさせてみたり、その時のお子さん力に合わせて目標を変えたりと工夫を行う。 発達支援の視点と将来身につけておきたい社会的なスキルという視点をもって、より充実した内容にしていく。
2	活動や子どもの様子について、スタッフ間での情報共有を密に行い、子どもの状況・変化、対応などを都度検討している。	日々の活動について、子どもの対応について、意見・情報交換をする時間を設けている。 職員みんなが意見を出す機会を設けている。 参加できない職員には書面などを通して情報共有を行なっている。	支援後の振り返りが十分に行えていないので、振り返りを行える仕組みを検討したい。 土曜・長期休暇など、情報共有の時間が取りにくいので、こちらも時間を確保して対応していきたい。
3	作業療法士、保育士、教員などさまざまな職種の職員があり、専門的な視点をもって、また幅広い視点をもって支援を行うことができている。	事業所内で研修を継続して行い、発達支援に関する知識を深め、日々の実践の中で技術を高められるようにしている。 各自、文献を読んだり、学会・研修会などへ参加し、適切な情報を取り入れて支援に活かしている。	外部の研修への参加や、事業所内での研修については能動的に研修に参加できるような仕組みを検討していく。 ケース検討など、子どもの理解を深める研修を実施していきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	就学前後のお子さんの支援が中心になっており、中学年以降、中学進学や青年期を見据えた支援への知識が少ない。	児童発達支援事業も行なっており、就学前後の支援が中心になっている。 思春期、青年期を見据えた支援の経験が少ない。 他事業所など、地域の資源の理解が不十分。	地域の資源についての情報を集め、役割分担をしながら、お子さんの発達・生活年齢に合わせた支援を考えていきたい。
2	保護者や外部向けの情報共有、勉強会などでの発信の機会が少ない	事業所での子どもの様子は支援記録を通して丁寧に伝えるように気をつけている。一方で事業所全体の取り組みなどを発信することはほとんどできていない。他の業務に比重を置いていることもあるが、発信へのマンパワーが足りない。	保護者向けの研修を企画・実施を検討している。希望に合わせて行なっていきたい。 事業所の様子を伝える通信やオンラインでの情報発信を検討したい。 業務負担の少ない形で継続できる方法を検討したい。
3	非常時などの対応に対する取り組みや周知	火災、地震、水害に対する避難訓練や救急対応、不審者対応などの訓練を実施している。取り組んでいる内容を周知できていない。 子どもが参加する避難訓練の頻度が少ない。	BCP計画、安全計画の作成・発信を通して周知していきたい。 定期的な訓練について実施報告や子ども・家族が参加する訓練の機会を設けたい。